

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

精神障がい者地域移行支援研修会でのグループワークを通じ、医療、福祉、行政の顔の見える関係が図られており、すべての圏域において連携体制の推進の協議の場がある。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
精神病床における長期入院患者の地域生活移行が進まない。 ①地域移行に関わる関係者の意識を高める必要がある。(送る側)	地域移行関係職員研修会を開催し、個々の資質の向上を図った。	圏域のリーダー養成のファシリテータ研修を実施したうえで、研修会においては、圏域で具体的に地域移行を進めるために地域移行の目標件数を設定し、役割分担まで話し合った。圏域毎の具体的な取組みにつながるとともに、関係者の役割が明確になった。
②精神障害者を受け入れる地域の基盤を整える必要がある(迎え入れる側)	全体会を開催し、進捗管理及び、圏域単位の活動の底上げを図った。	各圏域で抽出された課題について整理し、県全体で取組む内容の共有が図れた。
③関係者が連携し取組んでいく必要がある	障害圏域ごとに協議の場を設置し、圏域内の地域移行に向けた課題の共有、事例検討を推進した。	今年度、10の障害福祉圏域すべてに協議の場の設置を完了した。研修で話し合った圏域毎の地域移行個別給付の目標件数に向けて、圏域毎に医療機関と保健所の顔の見える関係を構築し取組みをすすめるなど、具体的な取組み(検討)につながった。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (H30時点)	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①長期入院患者数(1年以上)	4,939人	4,396人	・精神科医療機関の医療機能の明確化・相互の連携を図るための取組みや、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための取組みを勧めたが、熊本地震を経て入院3か月時点及び1年時点の退院率は下がった。 ・65歳以上の長期在院者数は増えている一方で、65歳未満は減っている。取組みを進めることで、時間はかかると思うが、今後65歳以上の長期在院者数も次第に減少すると思われる。
②入院後3ヶ月時点の退院率	54.6%	69%	
入院後6ヶ月時点の退院率 入院後1年時点の退院率	77.4% 86.2%	84% 90%	